

心臓血管外科

概要

部長：小山 忠明

スタッフ：8名 心臓血管外科専門医：2名

特徴

新しい専門医制度が発足して心臓血管外科の卒後教育も変革の時期に来ている。当科では400例以上の心臓大血管手術と100例以上の末梢血管手術を施行している。循環器内科との合同カンファレンスを週に1度行い、ハートチームとして循環器疾患の治療方針を決定している。大動脈弁狭窄症に対するカテーテルでの人工弁置換術（TAVI）を兵庫県最初の実地施設として開始し、すでに例以上の症例を蓄積している。また大動脈瘤に対するステントグラフト治療も心臓血管外科主導で行っている。カンファレンスは循環器内科と合同で月曜日が大動脈カンファレンス、水曜日が症例検討会、隔週の火曜日が弁膜症カンファレンス、そして金曜日に麻酔科医師と臨床工学技士、看護師を交えて次週の術前カンファレンスを行っている。科内でも毎週木曜日に文献抄読会—を行っている。当科では手術練習キットも充足しており、心拍動バイパス術の血管吻合練習器、人工心肺カニューレーションセットなどを備え、いつでも練習できる環境にある。

当科の特徴として虚血性心疾患、弁膜疾患、大動脈疾患の手術件数がバランスよく分配されており、末梢動脈の血栓除去、静脈瘤、シャント作成といった基本的手術からオフポンプでの多枝冠動脈バイパス術、弓部大動脈置換、僧房弁形成といった難易度の高い手術までを幅広く経験することができる。またハイブリッド手術室も完備されており、腹部および胸部大動脈瘤に対するステントグラフト治療、前述したTAVI、下肢血行再建でのカテーテル治療と手術の同時施行を行っている。我々の外科プログラムは外科専門医取得を可能な限り短時間で取得し、専攻医3年間で2年以上は心臓血管外科での研修が可能であり心臓血管外科専門医取得の準備段階として十分な症例を経験することが可能な体制となっている。

一般目標・行動目標

3年間で以下の項目を習得し、外科専門医取得後に心臓血管外科専門医取得の準備を行う。

1. 心臓血管外科に必要な心臓血管系の解剖と生理の基本的知識を理解する。
2. 心臓血管疾患における主要徴候とその診断法、手術適応について理解する。
先天性心疾患、後天性心疾患、大動脈・大静脈疾患、末梢血管
3. 心臓血管疾患患者さんを治療するうえで、病歴の聴取、カルテの記載、検査内容や治療方針の整理が確実に出来るようにすると同時に、患者さん・家族とのインフォームド・コンセントを含めた信頼関係を形成する能力を身につける。

4. 心臓血管外科診療に必要な検査・処置に習熟して臨床応用ができる。
 検査法：心電図、X線検査、超音波診断、心カテーテル検査、心血管造影検査、CT、MRI
 集中治療室、救急部あるいは病棟での周術期管理ができる。
 補正輸液と維持輸液療法、輸血量の決定と成分輸血の指示、抗生物質の適正な使用と副作用・合併症に対する対処、手術創・ドレーンの管理、各疾患における術後早期合併症の診断と治療、経静脈栄養・経腸管栄養の習得、Swan-Ganzカテーテルによる循環管理の習得、人工呼吸器による呼吸管理の習得、気管切開の適応と手術の習得、胸腔ドレナージの習得、除細動の適応と実施
5. 指導医のもとで患者さんを担当して術前評価、手術適応、手術方法、術後合併症などを含めて疾患と重症度に応じた入院計画書を作成し、術前検討会で症例毎の外科治療計画を発表する。指導医とともに患者さん・家族に外科治療について十分説明してインフォームド・コンセントを得る。
6. 3年の修練で最終的に以下の手術手技を習得する。
 静脈瘤・内シャント作成を指導医なしで執刀できる
 動脈血栓閉塞に対する血栓除去、下肢血行再建の執刀
 カテーテルの基本的な手技、永久ペースメーカー挿入
 腹部大動脈瘤の第一助手と最終的にリスクの低い症例での執刀
 開胸、閉胸から始まり人工心肺のセットアップとあらゆる開心術の第一助手を務めることができる
 冠動脈バイパス術において静脈および橈骨動脈グラフトと内胸動脈の採取
7. 心臓血管外科の進歩にあわせた生涯学習を実践する。心臓血管外科学会関連の学会に入会して、心臓血管外科専門医申請に必要な業績と研修実績を満たす。学術集会、卒後教育セミナーへ積極的に参加する。専門の学術出版物や研究発表に接して、批判吟味ができるようにする。学術集会や学術出版物に症例報告や臨床研究の結果を発表する。

週間スケジュール

月曜日	外来 1人	手術 2例	大動脈カンファレンス
火曜日	外来 1人	手術 1例	手術手技合同練習、隔週で弁膜症カンファレンス
水曜日	外来 1人	手術 2例	循環器合同カンファレンス
木曜日	外来 午前、午後各1人	手術 1~2例	文献抄読会
金曜日	外来 1人	手術 1例	術前症例検討会

専門研修プログラム

兵庫京大外科専門研修プログラムは、当院ホームページをご参照ください。

URL : http://chuo.kcho.jp/recruit/late_resident/medical

見学等問い合わせ先

小山 忠明 : koyamat@kcho.jp